

## 「接着性材料を臨床に活かす」

北海道医療大学口腔機能修復・再建学系高度先進保存学分野

教授 伊藤 修一

歯科診療において、歯科材料を上手く使いこなすことは、予後を計る上で重要な位置を占めている。中でも接着性歯科用材料の進歩は、目覚ましく、近年においては、歯科材料に機能性を持たせた、いわゆる「バイオアクティブ材料」など様々な製品が上市されている。しかしながら、数多くの製品をすべて理解し、選択し、使いこなす事は至難の業である。また、近年、歯冠修復においてCAD/CAM冠の保険診療への導入やセラミック修復などの普及に伴い、大きな変化を迎えている。これらの治療は、審美性の回復には優れているものの、広範囲の歯質の切削を伴うため、生活歯の修復においては、躊躇されることも少なくない。このような状況に対して歯科材料を“うまく使いこなす”ことが重要になってくる。また、近年、歯内療法学の分野において、MTAの開発やマイクロスコープ、Ni-Ti ファイルの普及に伴い、変革の時期を迎えている。それに伴って、歯内療法関連材料の開発も進んでいる。このような材料を“うまく使いこなす”ことが、予後に大きく関わってくることになると考える。

そこで、本講演では、症例を交えながら接着性歯科用材料の現状について解説させていただき、日頃の先生方の診療の一助となれば幸いである。

### 【略歴】

北海道医療大学口腔機能修復・再建学系高度先進保存学分野  
教授 伊藤 修一



- 平成 9年 3月 北海道医療大学歯学部卒業
- 平成 13年 3月 北海道医療大学大学院歯学研究科博士課程 修了
- 平成 14年 12月 Medical college of Georgia, Department of Oral biology (Prof.Pashley) 研究員
- 平成 16年 8月 北海道医療大学歯学部歯科保存学第二講座助手
- 平成 17年 4月 北海道医療大学歯学部歯科保存学第二講座講師
- 平成 23年 8月 北海道医療大学歯学部口腔機能修復・再建学系う蝕制御治療学分野准教授
- 平成 30年 5月 北海道医療大学歯学部総合教育学系歯学教育開発学分野教授
- 令和 5年 4月 北海道医療大学歯学部口腔機能修復・再建学系高度先進保存学分野教授

日本歯科保存学会指導医、日本接着歯学会指導医  
日本歯科理工学会 Dental Material Senior Adviser

### 【受賞歴】

日本歯科保存学会奨励賞、日本接着歯学会学術奨励賞、日本接着歯学会学術優秀発表賞（4回）、  
日本接着歯学会論文賞、日本歯科保存学会学術賞、日本歯科理工学会 Best reviewer Award（2回）、  
日本歯内療法学会優秀論文賞